

平成 22 年度 教育課程編成にあたって

中国語

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

- ① 小学校との接続及び指導事項の系統性を踏まえて重点化を図る。また、生徒の実態に応じ、ねらいを実現するのにふさわしい学習活動としての言語活動を具体的に設定する。
- ② 国語科で習得・活用し高められた言語の力を、他教科等の言語活動に生かし関連付ける。

(2) 単元や教材の開発

「伝統的な言語文化に関する事項」の指導に当たっては、小学校でどんな知識・技能を身に付けているか、生徒の実態を確実にとらえ、現代の生活に生かす視点での単元構成を工夫するなど、「古典に親しむ」指導を心掛ける。

(3) 配慮すべきこと

- ① 学校図書館や情報機器の活用、道徳教育の全体計画との関連や内容・時期に配慮する。
- ② 平成 22 年度入学者については、第 3 学年になる時点で新学習指導要領全面実施になることを踏まえ、3 年間を見通した指導計画を作成する。

2 教育課程編成上、参考となる取組例

(1) 年間指導計画例

月	単元名等	A 話すこと・聞くこと					B 書くこと					C 読むこと							
		指導事項		言語活動例			指導事項		言語活動例			指導事項							
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	言語活動例	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ
4				◎	○			メモを取り…											

縦軸に単元名等、横軸に指導事項や具体的な言語活動例を示した一覧表の形式。指導事項は学習過程に即して複数取り上げるが、特に重点的に指導し評価するものに「◎」を付している。これにより、指導の重点化を図るとともに、年間を通じて多様な言語能力を調和的に育成するための道筋が見えやすくなる。

(2) 3 年言語活動「説得力のある文章を書く」を社会科と関連させた取組例

国語科「説得力のある文章を書こう」学習後、自分の主張を根拠立てて説明する力と、説得力をもたせるための文章構成の力を生かして、社会科「国民生活と経済」に関する論文を作成。国語科最終時で、社会科の論文をグループで読み合い、互いの工夫点を見付けさせた。

3 教育課程編成上の Q&A

- Q1 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各学年の目標と内容で、第 1 学年には「日常生活」、第 2・3 学年には「社会生活」とあるが、違いは何か。【解説・P109】
- A1 「日常生活」は小学校のキーワード、小学校 5・6 年と中学校 1 年の接続を円滑にするため。「社会生活」は中学校のキーワード、課題設定の対象を「社会生活」全般に広げて示している。
- Q2 他学年の言語活動例を行ったり、複数領域にかかわる言語活動を取り上げたりしてもよいか。
- A2 可。第 4 章指導計画の作成と内容の取扱い第 1 節【解説・P80】に明記。ただし、位置付ける指導事項を明確にし、生徒自身が自覚的に切り替えられることが大事。